

基本目標 **3** 未来につなぐ、八千代人を育むまち

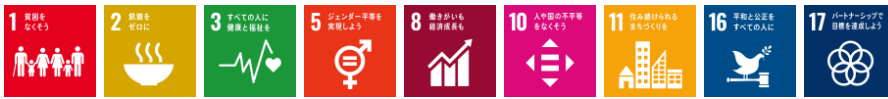


「じゃぐちからメロン水！？
メロンでメロンができちゃった」
安静小 高橋 凜さん

【基本目標3の施策体系】

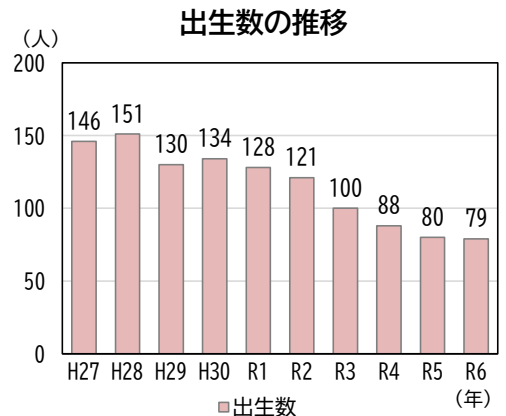
- 3-1 切れ目のない子育て支援
- 3-2 社会と郷土の未来を担う人財育成
- 3-3 地域で見守る青少年健全育成
- 3-4 生きがいと地域を育む生涯学習
- 3-5 身近で親しまれる地域文化
- 3-6 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動

3-1 切れ目のない子育て支援



現況・課題

- 本町では、妊娠・出産・育児の経済的な支援や相談のほか、子どもの学校生活、移住・定住、結婚生活などの切れ目のない支援を充実させ、健診予定や成長記録等の機能を備えた子育てアプリを提供しています。
- 令和7年（2025）6月には、親子の交流や子どもの健やかな育ちを支援するための「八千代町子育て交流サロン」を開所しました。
- 一方で、この10年で町の出生数は大きく減少し、令和6年（2024）には79人となっています。今後は、町の子育て支援の取組や暮らしやすさを町内外に積極的に発信し、若者や子育て世代に選ばれる町を目指していく必要があります。



【出典】茨城県常住人口調査

基本方針

妊娠から子育てにわたる継続的な支援や、保育環境・居場所づくりの充実などにより、地域の中で安心して子どもを産み育てることができるまちを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
婚姻数（4年間の累計）	181組（R3～R6年）	230組（R8～R11年）
出生数（4年間の累計）	347人（R3～R6年）	360人（R8～R11年）

取組施策

① 出会い・結婚を希望する人への支援

- いばらき出会いサポートセンターや各団体との連携を図りながら、出会いや結婚を望む方への情報提供や相談会の開催などに取り組みます。
- 出会いの場を創出するため、NPO法人や各団体が主催するイベントへの支援を行うとともに、他自治体などとの広域的な連携を図ります。

②妊娠から子育てまで切れ目のない支援

- 妊娠・出産に関する不安の解消や不妊・不育治療、産後ケアなどの支援を充実し、誰もが安心して妊娠・出産できる環境を整備します。
- 妊産婦や乳幼児の健康、発育・発達、育児などを支援する母子保健の充実を図ります。
- 茨城県医師会などと連携し妊産婦・乳児健康診査を実施するとともに、妊産婦の希望する医療機関・助産所における受診機会の提供を図ります。
- 保健師や母子保健推進員が、乳児のいる家庭や支援が必要と認められる妊婦・保護者宅を訪問し、心身の状況や養育環境を把握して、相談や必要な支援につなげます。
- 地域の子どもや子育て家庭を支援する中核的な施設として、「こども家庭センター」の充実を図り、子どもや保護者等が安心して相談できる体制を整えます。
- 子どもへの虐待防止や子どもの貧困解消に向けて、「要保護児童対策地域協議会」で関係機関や関係者と連携し、必要な対策を講じながら、子どもたちを見守ります。
- 国や県などの施策の動向を踏まえて、子育てに必要な各種手当や助成などにより、家庭の経済的負担の軽減を図ります。
- チラシやホームページ、アプリなどの多様な情報手段を活用し、地域の子育てに関する情報を総合的かつ分かりやすく提供します。

③保育環境の充実と居場所づくり

- 保護者の就業形態の変化や保育ニーズの多様化に対応するため、延長保育や一時預かり保育、病後児保育などの各種保育サービスの充実を図るとともに、町内保育所等での「こども誰でも通園制度」の利用環境を整えます。
- 幼稚園と保育所の機能を兼ね備え、質の高い保育・教育サービスを一体的に提供する認定こども園の整備を支援します。
- 保育所や身近な場所において、子育て中の親子や保護者同士の交流の場を開設し、育児相談や講座の開催等など、親子が安心して過ごせる場を提供します。
- 共働き家庭や一人親家庭などの児童が、放課後に遊びを中心として基本的な生活習慣や社会性を育むことができるよう、児童クラブの運営を支援します。
- 認定こども園・幼稚園・保育所の園庭開放を行い、安心して子どもを遊ばせる場を提供します。

基本目標3 未来につなぐ、八千代人を育むまち

④ワーク・ライフ・バランスの推進

- 町内の企業に対し、育児休暇の取得促進や多様な雇用形態の導入などに関わる情報を提供し、育児支援に関する取組を促進します。
- 男女が協力して行う家事・育児や、子育てと両立できる多様な働き方などについて、講演会や講座を開催するとともに、広報紙やホームページなどを通じた啓発活動を進めます。



八千代町子育て交流サロン（旧西豊田駐在所）



庁舎1階町民ホールのキッズスペース

【関連計画】 ・八千代町子ども・子育て支援事業計画（R7～R11年度）

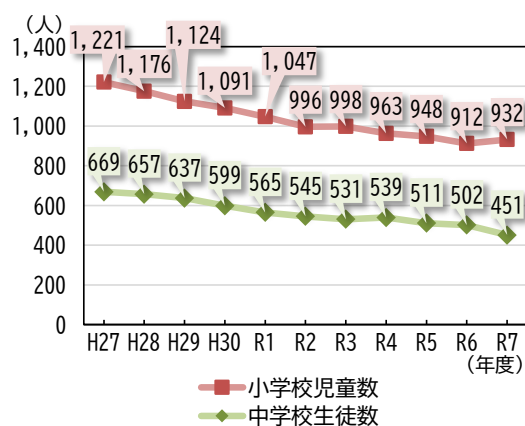
3-2 社会と郷土の未来を担う人財育成



現況・課題

- 本町は、令和7年度（2025）時点で、町立小学校が5校（西豊田小、安静小、中結城小、下結城小、川西小）、町立中学校が2校（八千代第一中、東中）です。
- 児童生徒数は減少傾向で、令和7年（2025）5月時点では、小学校児童数 932 人、中学校生徒数 451 人となっており、今後も小規模化が予想されます。
- このため本町は、令和7年（2025）2月に「八千代町学校の適正規模・適正配置等に関する方針」を策定しました。今後は、子どもたちが将来にわたって魅力ある学校で安心して学べる環境づくりに向けて、学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要があります。

小中学校の児童生徒数の推移



【出典】学校基本調査（各年5月1日現在）

基本方針

学校・家庭・地域が一体となって、学校教育の充実や教育環境の向上に取り組み、豊かな感性と的確な判断力・行動力を持ち、社会と郷土の発展に貢献できる人財の育成を目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
小学5・6年生、中学生英検受験率	小学生 44.7%(R6年度) 中学生 39.4%(R6年度)	小学生 50%(R11年度) 中学生 50%(R11年度)

取組施策

① 幼保・幼保小連携の充実

- 幼稚園（幼）と保育所（保）の機能を兼ね備え、質の高い保育・教育サービスを一体的に提供する認定こども園の整備を支援し、子育て支援の拠点として活用を図ります。
- 認定こども園・幼稚園・保育園（幼・保）と小学校（小）が連携して、子どもがスムーズに小学校生活へ移行できるよう支援する取組を進めます。

②学校教育の充実

- 学習指導要領の改訂などに対応しながら、「八千代町教育大綱」、「八千代町教育振興基本計画」を踏まえ、特色のある教育を進めます。
- 児童生徒の確かな学力の向上に向け、各小中学校及び町教育委員会において、「学力向上プラン」を作成し、学力向上のための取り組みを進めます。
- 超スマート社会を主体的に生きる力を育むため、ICT（情報通信技術）を積極的に活用した授業展開を推進し、子どもたちの情報活用能力の向上を図るとともに、研修会等を通して情報モラル教育を推進します。
- 国際化に対応できる人財を育むため、小中学生の英語力強化に向け、ALT（英語指導助手）による指導の充実を図るとともに、学校行事を通じたALTと児童生徒の交流などにより国際理解教育を進めます。
- 教員の資質の向上や特色ある学校づくりに向け、人財育成・学校活性化支援システムの活用、新たな教育課題に対応した教員研修機会の充実、学校訪問による学校支援に取り組みます。
- 児童生徒一人ひとりの豊かな心を育むため、図書館と連携して小中学校での読書活動を推進します。
- 児童生徒が安心して教育を受けられるよう、いじめや不登校、孤立感への対応を含め、学校や町教育支援センター、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどとの連携を強化し、相談・指導体制の充実を図ります。
- 児童生徒の健やかな体を育むため、授業などの教育活動を通して計画的・継続的に体育活動を推進するとともに、中学校の運動部活動について、段階的な休日部活動の地域展開を進めます。

③教育環境の維持・向上

- 児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難場所となる施設として、学校施設の定期的な点検を実施します。
- 学校施設の長寿命化計画に基づき、施設・設備の計画的な修繕に取り組み、児童生徒が安心して学べる学校づくりを進めます。
- 多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく資質・能力を確実に育成できるよう、ICTや教育機器を適切に維持・更新し、様々な用途で学習をサポートします。
- 「八千代町学校の適正規模・適正配置等に関する方針」に基づき、小規模校の解消や小中連携教育の充実など、未来を担う子どもたちが真に学べる魅力ある教育環境の整備を目指して、小中学校の新設統合を目指した学校再編を図ります。

④特別支援教育の充実

- 障がいのある児童生徒の障がいの状況を的確に把握し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した適切な指導及び必要な支援を図ります。
- 授業のユニバーサルデザイン化などを進め、すべての児童生徒が「分かる」「できる」授業づくりや指導の充実を図ります。

⑤学校給食の充実

- 児童生徒や保護者の食に関する正しい理解と適切な判断力を養うため、「給食ニュース」や「食育だより」による啓発、町ホームページなどでの様々な情報提供を図ります。
- 食に関する正しい知識や望ましい食習慣の定着を図るため、給食指導を通じた食育を推進するとともに、アレルギーに関する知識の普及などに取り組みます。
- 食材について地場産物をできるだけ使用するほか、献立に地産地消の日を設けるなど、地域の産業に関する児童生徒の理解を深め、地産地消を推進します。
- 民間事業者との連携により、調理・配送などの業務の効率化を図り、引き続き安定した給食の提供体制を整えます。

⑥地域と連携した学校づくり

- 地域全体で子どもたちの育ちを支えるため、学校・家庭・地域が連携・協力して行う、学校運営協議会を中心としたコミュニティスクールの取組を推進します。
- 学校・家庭・地域が連携し、下校パトロールや立哨などの見守り活動、子どもたちの避難場所の確保などに取り組むとともに、必要に応じて新たな防犯灯の設置を進めます。
- 学校体育施設を地域住民のスポーツ活動の場として開放し、社会体育の普及及び振興を図ります。



八千代町地域クラブ活動（八千代サッカークラブ）

- 【関連計画】
- ・ 八千代町教育大綱（R4～R8 年度）
 - ・ 八千代町教育振興基本計画（R4～R8 年度）
 - ・ 八千代町学校の適正規模・適正配置等に関する方針（R7 年度～）
 - ・ 八千代町学校施設の長寿命化計画（R2～R21 年度）

3-3 地域で見守る青少年健全育成



現況・課題

- 本町では、子どもや若者の健全育成を図るため、団体やグループでの体験活動、青少年相談員による非行防止活動、家庭教育の推進等に取り組んでいます。
- 少子高齢化が進む中、子ども会活動の見直しや、青少年育成を支える人材の確保等が課題となっています。
- ネットいじめや闇バイトなど、情報化社会に伴う新たな課題に対応するため、学校・家庭・地域が連携して見守りつつ、社会参加や自立につながる機会を提供することが必要です。



図書館ボランティアの見守り

基本方針

青少年の健全育成活動や家庭の教育力向上、相談支援に取り組み、学校・家庭・地域が連携して成長を見守り、社会参加や自立を支える体制づくりを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
長期宿泊体験事業（愛らんど八千代事業）参加者数	23人（R6年度）	40人（R11年度）
地域子ども教室延べ参加者数	409人（R6年度）	450人（R11年度）

取組施策

①子どもの育成・体験活動の推進

- 子どもたちの心身の健全育成のため、各行政区の子ども会育成会などの活動を支援し、子ども会活動の活性化を図ります。
- 子どもの体験学習や子ども教室を開催し、自立する力や助け合う心を育て、多様な社会環境に対応できる豊かな人間性を持った子どもの育成を図ります。

②青少年健全育成活動の推進

- 青少年相談員などと連携して、青少年を守るためのパトロールや街頭活動等により青少年健全育成活動を推進するとともに、相談員の人材育成・確保や協力店舗の拡大に取り組みます。
- 学校訪問や研修会等を通じて、薬物乱用防止教育や情報モラル教育などの積極的な取組を推進します。
- 校外指導連絡協議会における関係機関との情報共有や、PTAによる防犯パトロールの実施等、青少年非行の未然防止に取り組みます。
- 児童生徒の問題行動など児童生徒一人ひとりに的確に対応するため、引き続き、関係機関と連携した支援を行います。

③家庭の教育力向上の支援

- 家庭の教育力の向上を図るため、保護者が子育てや家庭教育について学び、語り合い、交流できる場として、家庭教育学級の開催を支援します。
- 青少年が好ましい環境で成長できるよう、訪問型家庭教育支援により、必要に応じて家庭を訪問し、子育てや家庭教育に関する相談・情報提供を行います。
- 学校・家庭・地域をつなぐ役割を持つPTA連絡協議会に対し、活動助成や研修などの支援を行います。

④相談支援の充実

- 家庭の問題や友人関係の悩み、学習への不安など子どもたちの様々な悩みに対応するため、学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者、教職員への相談体制の充実を図ります。
- 不登校児童生徒やその保護者を支援するため、八千代町教育支援センターにおける電話相談や来所相談、訪問相談などの充実を図るとともに、校内フリースクールなどとの連携を強化します。

⑤青少年の社会活動や自立の支援

- 子ども食堂の運営支援や生活困窮世帯の学習支援など、子どもや若者が安全で安心して過ごせる居場所づくりに取り組みます。
- 青少年が自分の興味や関心を活かして社会参加や自立につながる機会を提供するため、ボランティア活動への参加の促進や、職業体験、キャリアアップの支援などを行います。

【関連計画】 ・八千代町教育大綱（R4～R8年度）

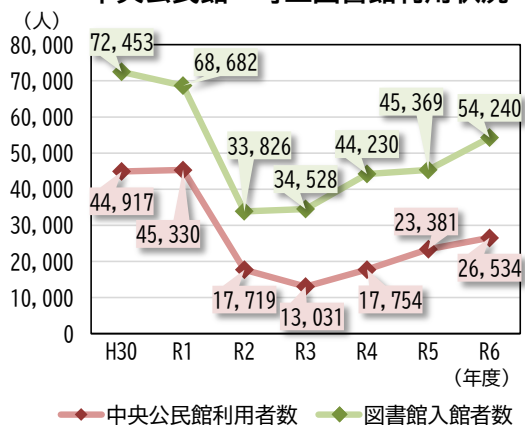
3-4 生きがいと地域を育む生涯学習



現況・課題

- 中央公民館の利用状況をみると、コロナ禍となった令和2年度(2020)に利用者数は大幅に減少しましたが、その後は少しずつ回復しています。
- 町立図書館の利用についても、同様にコロナ禍となり利用者が減少し、その後多目的な利用の促進により、利用者数は若干回復しています。
- 今後は、社会の変化や多様化するニーズを的確に捉え、町民が人生100年時代を前向きに生きるために、生きがいを持って主体的に学び、地域で活躍できる生涯学習の推進が求められます。

中央公民館・町立図書館利用状況



【出典】生涯学習課
※中央公民館利用者：R3～R5はワクチン接種者を除く人数

基本方針

公民館活動や図書館サービス等を通じて、町民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び、生きがいを持って地域で活躍できる生涯学習社会の実現を目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
公民館の年間利用者数	26,534人 (R6年度)	30,000人 (R11年度)
図書館の年間利用者数(入館者数)	54,240人 (R6年度)	80,000人 (R11年度)

取組施策

①生涯学習推進体制の充実

- 多様化する町民の学習ニーズを把握し、ニーズに対応した総合的な生涯学習体制の充実を図ります。
- 町内に住んでいる人又は勤務している人の技術や知識などを活かすため、リーダーバンクへの登録を促進し、この制度を活用して、生涯学習の機会の充実を図るとともに、町民相互のふれあいや連帯感を深めます。
- 生涯学習への意欲を醸成するため、「秋まつり」の継続的な実施、内容の検討・見直しなど、生涯学習活動の成果を発表する場の充実を図ります。

- 生涯学習に関する情報提供について、広報紙や町ホームページをはじめ、SNS、アプリなど、複数の媒体を活用し、効果的な周知を図ります。

②公民館活動の充実

- 中央公民館活動については、地域住民の学習ニーズや課題に沿った各種講座や教室を開催し、生涯学習の機会の充実を図ります。
- 所属する各種団体の会員募集や活動成果の発表の場の充実などを支援します。
- 中央公民館施設については、町民の公民館活動をはじめ生涯学習や交流の場として、整備を図ります。

③図書館サービスの充実

- 利用者のニーズや社会動向などに配慮し、蔵書の充実を図るとともに、電子図書館や移動図書館等を導入し、情報資源を利用者のもとへ届ける取組を進めます。
- 利用者の誰もが快適に利用できるよう、施設の老朽化状況を把握し、「図書館長寿命化計画」に基づき、計画的な改修を進めます。
- 小中学校と連携し、巡回図書、学校図書館見学などに取り組み、児童生徒の読書活動を促進します。
- 図書館の利用につながる様々なイベントなどを開催するとともに、利用者主体のイベントやボランティアの活躍などを支援します。
- 図書館の活動やサービスに関して、広報紙やチラシ、SNS、ケーブルテレビなど、様々な情報手段による効果的な広報活動を進めます。
- Webサービスを活用して、県や他市町村の図書館などと連携した相互貸借や情報検索を行い、利用者のニーズに応じた情報資源の提供を図ります。

④社会教育活動の支援

- 社会教育団体における自主的な活動を尊重しながら、各種団体間の連携や研修会への参加などによる活動の活性化を進めます。



八千代町立図書館

【関連計画】 ・ 八千代町教育大綱（R4～R8 年度）

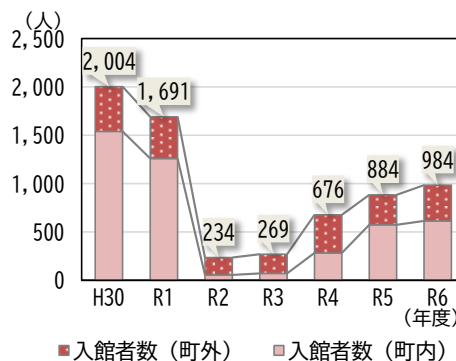
3-5 身近で親しまれる地域文化



現況・課題

- 本町の指定文化財の状況については、国登録文化財「谷中家住宅主屋」をはじめ、県指定文化財が3件、町指定文化財が42件となっています。
- 歴史民俗資料館の入館者数は、コロナ禍の令和2年度（2020）に大幅に減少し、徐々に回復しているものの、以前の水準には達していない状況です。
- 今後は、町民の芸術・文化活動を活性化し、文化財や資料館、地域資源を活かして、地域の文化や歴史に親しめる環境を整え、町内外に八千代の魅力を発信するまちづくりが必要です。

歴史民俗資料館の利用状況



【出典】生涯学習課

基本方針

芸術・文化活動や文化財等の保存・活用を通じて、八千代の文化・歴史を身近に感じ、その魅力に親しむことのできるまちを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
町指定・県指定文化財の件数	国登録 1件 (R6 年度)	国登録 1件 (R11 年度)
	県指定 3件 (R6 年度)	県指定 4件 (R11 年度)
	町指定 42件 (R6 年度)	町指定 45件 (R11 年度)
資料館入館者数、利用者数	984人 (R6 年度)	1,750人 (R11 年度)

取組施策

① 芸術・文化活動の推進

- 文化協会や祭ばやし連合会などの文化団体の活動を支援し、活動成果を町内外にPRできるように、夏まつりや秋まつり等の行事への参加を促します。
- 芸術・音楽鑑賞など、町民が質の高い芸術や音楽などに触れる機会を増やすとともに、文化活動団体相互の交流や研修視察の実施などにより、芸術・文化の振興を図ります。
- 伝統文化の後継者や指導者の育成により、地域文化の継承を図ります。

②文化財の保護・保存・活用

- 未指定文化財の調査を実施し、新たな文化財の指定など地域資源の保存・活用を図ります。
- 指定文化財の防火・防犯対策、保存修理など適切な保護・保存を図ります。
- 開発に伴い試掘調査・発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保全・活用を進めます。
- 指定文化財の巡回やパンフレット・マップの改訂、小学校副読本への掲載などにより、文化財所有者や町民に対し、文化財の保護・保存・活用の普及啓発を図ります。

③歴史民俗資料館の活用

- 町の歴史・文化を後世に伝えていくため、歴史資料や民俗資料の収集・保存、閲覧・展示などを実施するほか、収集資料の整理を進め、展示・閲覧などへの活用を図ります。
- 講演会や体験講座などを開催し、地域の歴史・民俗に関する学習機会の提供を図ります。

④歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

- 文化財に加えて、地域の生活文化や歴史・風習など、埋もれた地域資源を発掘し、本町の魅力として、シティプロモーション活動や観光PRなどのまちづくりへの活用を図ります。



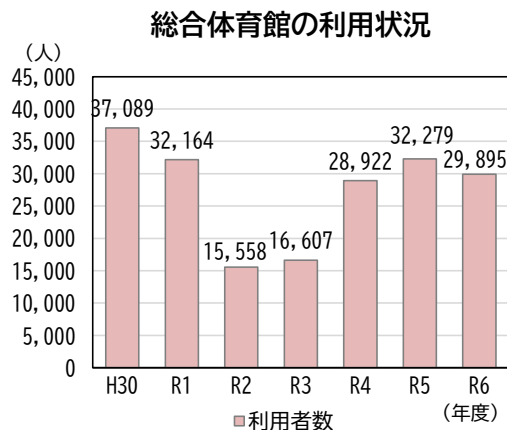
地域資源（旧中山家住宅）の活用検討

3-6 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動



現況・課題

- 本町では、町民のスポーツによる体力づくりのため、様々なスポーツ大会やスポーツ教室の開催、指導者の育成や関連団体の活動支援などに取り組んでいます。
- 総合体育館の利用状況をみると、他の社会教育施設と同様にコロナ禍で利用者が一時激減しましたが、現在は概ね回復してきています。
- 人口減少・少子高齢化により競技人口やチーム数が減少する中、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進め、町民の健康と交流を支えることが必要です。



【出典】スポーツ振興課

基本方針

スポーツ大会・教室等の開催や団体の育成・支援、運動習慣づくりなどにより、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動を楽しみ、町民の健康や交流につながるまちづくりを目指します。

目標指標

目標項目	現況値	目標値
町主催のスポーツ教室への参加者数	98人 (R6年度)	100人 (R11年度)
町主催の体育振興普及事業参加者数	86人 (R6年度)	100人 (R11年度)

取組施策

① スポーツ・レクリエーション活動の推進

- 地域の交流や生きがいづくりを図るため、各種スポーツ大会・教室などを開催するとともに、レクリエーションに関する様々な情報の提供、PRを行います。
- 年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、参加することのできる環境づくりを進めます。
- 鬼怒川サイクリングロードを活用し、誰もが気軽に参加できるウォーキング及びサイクリング事業を推進します。

②スポーツ・レクリエーション施設の充実

- 学校と連携し、地域住民のスポーツ活動の場として、学校体育施設の開放を図ります。
- 町のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設である総合体育館を中心に、誰もが安心安全に利用できるよう社会体育施設の計画的な修繕・維持管理に努めます。
- スポーツ・レクリエーションの場として、さらに交流の場としての施設整備について、検討を進めます。

③スポーツ団体の育成と活動支援

- 研修会や講習会等の情報提供を通じて、スポーツ指導者の養成と人材の確保を図るとともに、スポーツ部活動の地域展開なども見据え、子どもの発育発達に配慮した指導ができる指導者の育成に取り組みます。
- スポーツ団体の加入者や指導者の安全の確保、保険に関する情報提供など、スポーツ団体が活動しやすい環境づくりを進めます。
- スポーツ団体の主体的な活動を支援するとともに、各団体間の連携を強化し、スポーツの普及・振興を図ります。

④健康・体力づくりの推進

- スポーツ推進委員や各種スポーツ団体などと連携し、健康の維持増進、体力づくりにつながる体操教室やウォーキング、ハイキング等の事業を実施します。
- 運動する機会を持ってない人でも参加しやすいよう、各種イベント・教室などの情報提供や健康をサポートする運動習慣づくりを検討します。



「町民歩く会」の開催

【関連計画】 ・八千代町教育大綱（R4～R8 年度）

八千代で学び育ち、日本そして世界へ

町内の子ども数は年々減少しています。だからこそ、一人ひとりの成長を大切に、未来へつなぐ環境づくりが欠かせません。

八千代町では、地域ならではの農業体験や祭り、身近な伝統行事などを通じて、ここでしかできない学びを得ることができます。さらに、地域こども教室、愛らんど八千代、ベトナム友好都市への青少年海外派遣など地域内外での交流や体験を充実させ、子どもの時期にしか得られない貴重な経験を積めるよう取り組んでいます。

また、町内小中学校ではオンライン英会話レッスンの導入など、英語教育の充実を進めており、八千代で育った子どもが、将来、日本そして世界で活躍できる環境づくりを目指しています。やがてその子どもたちが八千代に戻り、あるいは遠くからでも何かを還元してくれるような「八千代人」を育むことが目標です。

また、町では、妊娠・出産・育児の支援に加え、住まいや学校生活の支援も着実に充実し、子育て世帯を全力でサポートしています。こうした取組を広くPRし、安心して子育てできるまちとしての魅力を伝えていくことも大切です。

未来を担う子どもたちのために、地域の体験や学びを一緒に支えていきませんか。その積み重ねが、次の世代の「八千代人」を育み、町の未来をより豊かにしていきます。



「愛らんど八千代・北海道」(長期宿泊体験学習)